

令和3年度 国本中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の教育」を基盤とし、豊かな人間性を持ち、意欲をもって主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい児童の育成

- ☆ 心豊かで思いやりのある子ども（やさしく）
- ☆ 自ら学ぶ子ども（かしこく）
- ☆ 明るく元気な子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標達成のため、全職員が自らの使命を自覚し、「人間尊重の教育」を基盤とした誰もが安心して学べる活力ある学校づくりを推進する。

学校教育目標達成のためには、教職員が学校経営の方針を理解し、自らの使命を自覚して、児童のよりよい成長のために日々の教育活動にあたることが重要である。その過程において、保護者・地域住民と適切に連携していくことにより、教育の目的である、児童の望ましい人格が形成されていく。したがって、本校は、教職員の資質の向上により、児童が安心して生き生きと学ぶことができる活力ある学校づくりを推進し、上記の具体目標の達成を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）基礎・基本の確実な習得とそれらを活用する力の育成（かしこく）
 - ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（個別最適な学びの実現）
 - ・ 学びに向かう力等と協働して課題解決に取り組む態度の育成（協働的な学びの実現）
 - ・ 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
 - ・ まとめの学習の充実と家庭学習の習慣化
 - ・ 学力調査等を活用した共通実践
 - ・ 宮・未来キャリア教育の充実
- （2）心の教育の充実による自己有用感、規範意識、思いやりの育成（やさしく）
 - ・ 宮っ子心の教育を核とした人権教育の推進
 - ・ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める道德教育の充実
 - ・ 児童の自信や自己有用感を高め、互いに認め励まし合う態度の育成
 - ・ 体験活動・読書活動の充実
 - ・ 「市及び学校いじめ防止基本方針」に基づいた、いじめを生まない指導の充実
 - ・ 不登校を生まない支援の充実
- （3）生涯にわたり心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力の育成（たくましく）
 - ・ 児童が健康に生活できる心と身体の育成を目的とした元気アップ教育の推進
 - ・ 運動に親しもうとする態度や能力の育成
 - ・ 健康を管理する能力の育成
 - ・ 望ましい食習慣の形成
 - ・ 危険予測・回避能力の育成
- （4）未来を生き抜くための資質・能力の育成
 - ・ 情報活用能力を育成する教育の充実
 - ・ 郷土への愛情を育む学習の推進（「宇都宮学」との関連）
 - ・ 英語教育・国際理解教育の充実
- （5）教職員の資質向上を目指す取組
 - ・ メンター制による実効的な校内研修の実施
 - ・ 学び続ける学校風土の確立とOJTの充実
 - ・ 信頼される教職員を目指した研修機会の確保
 - ・ 教職員評価を生かしたキャリアステージに応じた人材育成
- （6）地域とともにある学校づくりの推進
 - ・ 地域学校協働活動の充実による児童の健全育成
 - ・ 地域教育資源（人・物・場所）を効果的に活用した体験活動による郷土愛の涵養
- （7）教員の働き方改革の推進
 - ・ 学校行事等の精選、校務分掌の見直し、教員の意識改革の実現

・教職員の健康安全管理の徹底

【国本地域学校園教育ビジョン】

「自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子」 ～地域とともにある学校をめざして～

4 教育課程編成の方針

- (1) 保護者や地域に信頼される学校教育の展開
- (2) 確かな学力と健康・体力を育む教育の充実
- (3) 本校の特色ある活動を生かした豊かな心と社会性を育む教育の推進

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

○豊かな環境と地域教育力を活用した誰もが安心して学べる活力ある学校づくりの推進

- ・安全な学校づくり
- ・児童が安心して楽しく過ごせる学校づくり
- ・学力の向上を目指す学校づくり

【学習指導】

○自他を大切にし、共に学ぶ児童の育成（年間活動テーマ「お互いに 尊重し合う 国央小」）

【児童・生徒指導】

○学業指導による学びに向かう集団の育成

- ・すべての児童にとって居がいのある温かい雰囲気 of 学級経営の実践

【健康（体力・保健・食育・安全）】

○自分の体に関心を持ち、進んで健康・体力の向上に努める児童の育成

- ・教科体育・保健指導の充実と運動の日常化

【教職員の業務内容・勤務時間の適正化】

- ・重点目標の焦点化による、業務内容の精選・統合
- ・会議・研修内容の見直しと業務の効率化による勤務時間の適正化

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 聞き方の指導では、自分の考えをもつ時間を確保したうえで、自分や友達の考えを比べながら聞けるようにする。 ② 「まず」「次に」「なぜなら…だからです」などの伝わりやすい話し方の型を提示したり、話すことの観点を明確に示したりすることで、言語活動の充実を図る。 ③ 学習のめあてを児童に分かる簡潔な言葉で示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。	A	・児童の肯定的回答は95%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 聞き方の指導では、自分の考えをもつ時間を確保した上で、自分や友達の考えを比べながら聞けるようにする。 ② 話し方の指導では相手に伝わりやすい話し方の型を指導し、相手意識をもった話し方ができるようにする。 ③ 宇都宮モデルを実践しつつ、自分の言葉で振り返り活動を充実させ、より主体的に学習に取り組めるようにする。

目 指 す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 人権（学年に応じた内容）に関する知識・技能・態度などを身に付けられるよう全職員で研究を行い、思いやりやルールを守る心を育てる。 ② キャリアパスポート等に保護者のコメント欄を設けるなどし、学校の取組の発信を行う。 ③ 緑化活動を引き続き充実させる。スタンダードダイアリーの「心を育てる50の言葉」を授業や帰りの会で活用し、先人の生き方等に触れ、生き方を振り返る手立てとする。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は93%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 学年に応じて、人権の内容に関する知識・技能・態度などを身に付けられるよう全職員で研究を行うとともに、児童に分かりやすいスローガン等で啓発を図るなどして、思いやりやルールを守る心を育てる。 ② キャリアパスポート等に保護者のコメント欄を設けるなどし、学校の取組の発信を行う。 ③ 緑化活動を引き続き充実させる。スタンダードダイアリーの「心を育てる50の言葉」を授業や帰りの会で活用し、先人の生き方等に触れ、生き方を振り返る手立てとする。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 85%以上	①「学習のきまり」、「生活のきまり」、「月別の重点目標」を基に週的生活目標を設定し、基本的生活習慣や学習習慣の定着を図る。 ② 時間を守って行動できるよう、校庭での声掛けを実施する。 ③ 水道の使い方、廊下の歩き方について、生活当番の巡視の際など、全職員で重点的に指導する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は95%、児童の肯定的回答は89%で、共に目標を上回った。 【次年度の方針】 ①「学習のきまり」、「生活のきまり」、「月別の重点目標」を基に週的生活目標を設定し、基本的生活習慣や学習習慣の定着を図る。 ② 時間を守って行動できるよう、授業開始時にチャイムを鳴らすとともに、校庭での声掛けを実施する。 ③ 水道の使い方、廊下の歩き方について、生活当番の巡視の際など、全職員で重点的に指導する。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 率先してあいさつができるように、児童会を中心としたあいさつ運動を継続して行い、規範意識を高める。家庭・地域への啓発も意図的に行う。 ② 長期休業中にあいさつ実践カードを配付し、家庭への啓発を図る。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は95%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 率先してあいさつができるように、児童会を中心としたあいさつ運動を継続して行い、規範意識を高める。家庭・地域への啓発も意図的に行う。 ② 教員の率先垂範により、自然にあいさつをしたり返したりする習慣を身に付けさせる。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 児童が、学期始めの目標設定や学期末の振り返りに自分事として取り組み、有意義な活動になるように支援を工夫する。 ② 様々な時間で、児童の良さを認める活動を継続し、掲示物や具体物に表現していくなどの支援をすることで、児童の活動意欲を高めていく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① キャリアパスポートを活用して、具体的な学期始めの目標設定や学期末の振り返りができるように支援する。 ② 帰りの会で児童同士が互いの良さを認め合える時間を確保し、自己肯定感を高められるようにする。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 歯磨き指導を充実させ、歯磨きの定着を図る。 ② 長期休業中に、歯磨きカレンダーを配付し、家庭に対して歯磨きの啓発を図る。 ③ 病気の予防のため、うがい・手洗いの励行をする。 ④ 健康診断の結果を配付し、早期治療を勧める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は93%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 歯みがきの時間の設定や資料・歯みがきカレンダーを配付し、児童や家庭に対して歯みがきの啓発をしていく。 ② 健康診断結果など、保健関係の配付物から家庭への健康意識の啓発を行う。 ③ うがい・手洗いの励行をする。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 様々な職業にふれる、本や映像などの資料を使う、直接体験するなどの活動を通して、児童のキャリア教育に対する視野を広げる。 ② 児童が自分の良さや特徴を知り、夢や目標の実現に向けて自身の課題を明確にできるよう、キャリアパスポートを活用し、学級活動の内容を充実させる。 ③ 「みどり活動」と連携し、地域に花を届ける活動を行うことで、児童の社会参画への気持ちを高めていく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 資料活用を通して児童のキャリア教育に対する視野を広げる。 ② キャリアパスポートを活用し、学級活動の充実を図る。 ③ みどり活動や緑の少年団の活動と連携し、社会参画への意識を高めていく。
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 外国語科および外国語活動の時間では、ALTと協力して児童に興味をもたせながら授業を進め、児童の様子に合った声掛けをする。 ② 普段の生活の中でALTと進んで関わり、英語を使ってやり取りすることで英語に慣れ親しむことができるようにする。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は89%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 外国語科および外国語活動の時間では、ALTと協力して児童に興味をもたせながら児童同士のコミュニケーションを図れるような活動を工夫する。 ② 昼休みに英語の読み聞かせをするなど授業以外でのALTとのコミュニケーションの場面を設定する。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮市のよさを知っている。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上	① 学校行事や地域の行事、また、国本地域や宇都宮市の良さに関連する学習内容を積極的に扱う。その際、事前・事後の指導を充実させ、地域や市の良さを確認できるようにする。 ② お昼の校内放送で、宇都宮市の歴史や良さ、魅力について放送していく。また、地元でとれた食材を紹介し、地域との関わりや地域の良さに気付かせる。 ③ 講師の先生をお迎えし、宇都宮市の良さや魅力についてお話をいただく。また、ホームページや学校だより等を通して発信する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は80%、児童の肯定的回答は91%で、共に目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 学校行事や地域の行事、また、国本地域や宇都宮市の良さに関連する学習内容を積極的に扱う。その際、事前・事後の指導を充実させ、地域や市の良さを確認できるようにする。 ② お昼の校内放送で、宇都宮市の歴史や良さ、魅力について放送していく。また、地元でとれた食材を紹介し、地域との関わりや地域の良さに気付かせる。 ③ 講師の先生をお迎えし、宇都宮市の良さや魅力についてお話をいただく。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童はパソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 図書やICT機器を学習のねらいを高めるために活用する。 ② 児童がICT機器や図書等を学習に活用している様子を授業参観やたより等で取り上げたり授業で作成したものを掲示したりして、学校での取組の様子を保護者へ発信する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は94%であり、目標を上回った 【次年度の方針】 ① ICT機器の効果的な活用の仕方を工夫する。 ② 学習センターとしての図書館を計画的に活用する。 ③ 児童がICT機器や図書等を学習に活用している様子を、授業参観やたより等で取り上げたり、授業で作成したものを掲示したりして、学校での取組の様子を保護者へ発信する。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 道徳の授業では、「親切、思いやり」に関する内容を重点指導項目として実践していく。 ② 心ばかり運動で他者のよさを見つけ、互いに認め合うことのできる児童の育成を図っていく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は93%であり、目標を上回った 【次年度の方針】 ① こころばかり運動を継続し、他者のよさを見つけられるようにする。 ② 「親切、思いやり」の価値項目を重点指導し、道徳の授業を行っていく。 ③ 日常指導の中で言葉の指導を重視し、他者を思いやるあたたかな言葉を使えるようにする。

目 指 す 学 校 の 姿	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上	①「みどり活動」、「稲作活動」等、「持続可能な社会」と関連のある活動を行う際は、それらの関連について児童に指導する時間を設ける。 ② 活動の事後指導の場を設定し、児童自身が活動の意義を考えられるようにする。 ③ 実施計画内に事前・事後指導の要点を示し、全職員で統一した指導を行えるようにする。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は90%で目標を上回ったが、教職員の肯定的回答は60%で、目標を下回った。 【次年度の方針】 ①「みどり活動」、「稲作活動」等、「持続可能な社会」と関連のある活動を行う際は、それらの関連について、児童に指導する時間を設ける。 ② 活動の事後指導の場を設定し、児童自身が活動の意義を考えられるようにする。 ③ 日常的に「継続可能な社会」につながる活動を意識できたり、行動できたりする機会を設ける。
	B1 児童は、家庭学習に進んで取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「家庭学習に進んで取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 家庭学習通信を発行し、家庭学習の意義を理解できるように示し、さらに学級の懇談会や個人懇談等で保護者の理解と協力をより得られるようにする。 ② 年度始めに、家庭学習の大切さを「家庭学習のすすめ」を読み上げながら児童に伝えたり、常時、家庭学習への意欲を高めるための声掛けをしたりする。 ③「家庭学習振り返りカード」を活用して、家庭学習の意識化を図り、家庭学習に取り組もうとする意欲を持続できるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は87%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 年度始めに、家庭学習の大切さを「家庭学習のすすめ」を読み上げながら児童に伝えたり、常時、家庭学習への意欲を高めるための声掛けをしたりする。 ② スタンダードダイアリーを活用し家庭学習の習慣化を図る。 ③ 学級の懇談会等で家庭学習の意義を伝えとともに家庭学習週間を設定することで保護者の理解と協力をより得られるようにする。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援を必要とする児童の実態を把握し、関係する教職員や保護者と情報共有をして支援の方向性を示す。 ② 児童に応じた指導方法の工夫を行い、特別な支援を必要とする児童にとっても、分かりやすい授業の展開をする。 ③ 必要に応じて校内支援委員会を開き、個別の支援計画を作成してかがやきルームやSC、センター、保護者との連携を図っていく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 特別な支援を必要とする児童の実態を把握し、関係する教職員や保護者と情報共有をして支援の方向性を示す。 ② 児童に応じた指導方法の工夫を行い、特別な支援を必要とする児童にとっても、分かりやすい授業の展開をする。 ③ 必要に応じて校内支援委員会を開き、個別の支援計画を作成して、かがやきルームやSC、センター、保護者との連携を図っていく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 定期的なアンケート調査や教育相談により、子供の実態把握と、いじめ防止・早期発見に努め、適切な対応をする。 ② 学校だより・学年だより等でアンケート調査や教育相談などの学校での取組を保護者に知らせる。 ③ 道徳の授業公開をする際、いじめ防止を扱った内容を行い、保護者へのいじめ防止活動の周知を強化する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は98%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 定期的なアンケート調査や教育相談により、子供の実態把握と、いじめ防止・早期発見に努め、適切な対応をする。 ② 学校だより・学年だより等でアンケート調査や教育相談などの学校での取組を保護者に知らせる。 ③ 道徳の授業公開をする際、いじめ防止を扱った内容を行い、保護者へのいじめ防止活動の周知を強化する。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人への児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童や保護者に、積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに努める。 ② 養護教諭、SC、市のセンターと積極的に連携を図り、アドバイスをもらいながら指導に活かしていく。欠席状況調査票も活用し、月5日以上の欠席累計だけでなく、トータルの欠席累計の状況や遅刻・早退の動きなどを分析し、潜在的な不登校児の早期発見と対応に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は97%、教職員の肯定的回答は100%で、共に目標を上回った 【次年度の方針】 ① 児童や保護者に、積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに努める。 ② 養護教諭、SC、市のセンターと積極的に連携を図り、アドバイスをもらいながら指導に活かしていく。欠席状況調査票も活用し、月5日以上の欠席累計だけでなく、トータルの欠席累計の状況や遅刻・早退の動きなどを分析し、潜在的な不登校児の早期発見と対応に努める。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教職員が異文化への広い知識を率先して身に付け、児童が世界の誰とでも仲良くなれるような国際感覚を養う。 ② 道徳やその他の授業を通して、人権感覚や国際感覚を養う。 ③ 関係機関と提携し、児童の実態に応じて日本語指導の時間を設ける。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 教職員が異文化への広い知識を率先して身に付け、人権感覚や国際感覚を身に付ける。 ② 関係機関と連携し、児童の実態に応じて日本語指導の時間を設ける。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童がより主体的に関わることができるよう学校行事の充実を図り、生活科や総合的な学習の時間では、地域の特色を生かした教育活動の充実をめざす。 ② 人権コーナーや心ぽかぽか運動等の充実を図り、人権感覚を養うことで相手を思いやる心を育てる。 ③ 学校全体でのあいさつ運動の徹底や学級での話し合い活動を充実させて、活気ある学校づくりを目指していく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 児童会を中心としたあいさつ運動や心ぽかぽか運動を実施することで、児童が互いに認め合う学級づくり・学校づくりを行う。 ② 授業の中で、教師も児童も互いの意見を認め合い、励まし合う環境づくりを行う。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 毎時間、学習のめあてとまとめを明確に板書し、振り返りもノートに書くように指導すると共に、ICT機器などの活用を充実させる。 ② 児童の実態を把握し、習熟度別学習やT・T（チーム・ティーチング）、かがやきルームでの学習など多様な指導方法を活用し、個に応じた指導の充実を図る。 ③ 各学年の担任が協力して教材研究を進め、授業形態の工夫をしながら、分かる授業の実践に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は97%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 宇都宮モデルを実践しつつICT機器などの活用を充実させる。 ② 児童の実態を把握し、習熟度別学習やT・T（チーム・ティーチング）、かがやきルームでの学習など多様な指導方法を活用し、個に応じた指導の充実を図る。 ③ 各学年の担任が協力して教材研究を進め、授業形態の工夫をしながら、分かる授業の実践に努める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 校務分掌を意識して、学校教育目標達成のために職員全体が連携し、組織的に業務に取り組む。 ② 地域の方々と連携・協力して行事等の充実を図り、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 校務分掌に基づいた職員間の連携や、多様なスタッフの専門性を発揮する場の設定などを通して、チーム力の向上を図る。 ② 学校事務、学校図書館業務、学校栄養士業務が地域学校園内の連携を積極的に図ることで、業務の負担軽減につなげる。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 各々が校務分掌を意識して業務に取り組むとともに、これまで慣行として行われてきた業務内容についても、必要性・妥当性が認められないものは見直していく。 ② 退勤時刻を意識して業務の優先順位を決めることを心掛け、自らの業務を効率的に進められるようにする。 ③ 学校行事の振り返りなどを基に、学校行事の精選を図り、業務量を縮減する。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は95%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① ワークライフバランスを見直していく視点で業務内容を見直し、長時間労働を削減するために、自分にできることを意識して業務に取り組めるようにする。 ② 毎月の定時退勤日を設定し、退勤時刻を意識した働き方や、計画的に業務に取り組むことに努める。 ③ 学校行事の精選や、ICTを活用した打合せなどを推進して、業務の効率化を図る。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園全体研修会の機会を活用し、部会ごとの情報交換を通して、各校が連携・協力して指導にあたる。 ② 地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を同歩調で行う。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 地域学校園全体研修会の機会を活用し、部会ごとの情報交換を通して、各校が連携・協力して指導にあたる。 ② 地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を同歩調で行う。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 各種ボランティアの募集などを積極的に行い、地域の方々が学校の教育活動に広く参画できるようにする。 ② 学校行事の振り返りの際に地域の方々が関わっていることを意識させ、感謝する気持ちを醸成する。 ③ ホームページや各種たより等で行事等を積極的に紹介・発信して、本校の特色ある教育活動についての周知を図る。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員100%、保護者83%、地域100%と全ての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 本校の特色である、「稲作活動」や「ブルーベリー栽培」などを継続して、地域と共に活気あふれる学校づくりに努める。 ② 「花の宅急便」や「感謝の集い」などを通して、地域の方々とふれ合いをもち感謝する気持ちを醸成する。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 地域協議会との連携を深め、地域を生かした特色ある学校づくりに努める。 ② 各種ボランティアの活動を、たよりやホームページ等で紹介し、ボランティア活動の充実を図る。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員100%、保護者83%、地域100%と全ての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 各種ボランティアの募集をしたり、ボランティアの活動を、たよりやホームページ等で紹介したりして、地域の方々が学校の教育活動に広く参画できるようにする。 ② 「れんげまつり」、「国本地区たこあげ大会」等の地域行事への参加や、「カルビー見学」、「NTTネットトラブル教室」等の企業の協力のある学習を通して、児童の社会性を育てる。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 職員で分担し、月1回校舎内外の安全点検を丁寧に実施する。 ② 異状を発見した場合には、早急に担当者に連絡し、修理等に迅速に対応する。	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員100%、保護者95%、地域100%と全ての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 職員による月1回校内外の安全点検を確実にし、事故の未然防止に努めていく。 ② 異状を発見した際には、迅速に担当者への連絡を欠かさず行い、修理等の対応をしていく。

	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童はパソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80% 以上	① 計画的に新聞や図書を購入して、必要な図書の充実を図る。 ② 児童が効果的な学習ができるように、I C T 支援員と連携を図って指導を行う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94% であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 計画的に新聞や図書を購入して、必要な図書の充実を図る。 ② I C T 支援員と連携して教材の開発や情報交換をする。 ③ 効果的な活用の仕方について情報共有する場を設定する
本校の特色・課題等	B2 学校は、栽培・緑化活動を通して、自然体験や体験的な学習を推進している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、栽培・緑化活動を行い、自然に親しんでいる」 ⇒地域の肯定的回答 80% 以上	① 「緑の少年団」、「緑化コンクール」等の活動を通じた学校環境緑化活動を引き続き推進し、活動内容を地域協議会等で紹介する。 ② 「ブルーベリー栽培」、「稲作体験」等の体験活動を引き続き推進する。	B 【達成状況】 ・地域の肯定的回答は 100% であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 「緑の少年団」の活動や魅力ある学校づくり地域協議会との連携を通して、学校環境緑化活動を推進する。 ② 各学年で取り組んでいる学校花壇での花の栽培や、環境委員会による来賓玄関前の栽培活動を引き続き推進する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・「A8 英語を使ったコミュニケーション」に関しては、教職員の肯定的回答が 100% から 90% に下がった。A L T と教職員が協力し、児童に興味をもたせながら児童同士のコミュニケーションを図れるような授業を展開したり、A L T による昼休みの読み聞かせを計画したりして、英語を使ったコミュニケーションの場の充実を図る。 ・「A9 宇都宮の良さ」に関しては、教職員の肯定的回答が 88% から 80% に下がった。給食時の校内放送で、宇都宮市の歴史や良さ、魅力について紹介することを継続するとともに、国本地域や宇都宮市の学習をする際には、児童が地域や市の良さを意識できるよう授業の充実を図る。 ・「A12 持続可能な社会」に関しては、児童の肯定的回答が 90% で数値指標に達したが、教職員の肯定的回答は 60% で数値指標に達することができなかった。みどり活動や稲作活動等が、「持続可能な社会」につながることを教職員が共通理解して指導に取り組む。 ・「A18 分かりやすい授業」に関しては、保護者の肯定的回答が 86% から 80% に下がった。個別最適な学びを進めるために、I C T 機器の活用や習熟度別学習や T ・ T など多様な指導方法の充実を図る。 ・「A21 小中一貫教育・地域学校園」に関しては、保護者の肯定的回答が 77% から 72% に下がった。引き続き、地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を同歩調で行ったり、学校栄養士業務や学校図書館業務の連携を継続したりすることで、小中一貫教育・地域学校園の取組の充実を図る。 ・「B1 家庭学習の習慣化」に関しては、教職員の肯定的回答が 100% から 95% に下がり、保護者の肯定的回答が 86% から 81% に下がった。家庭学習振り返りカードを活用して家庭学習の習慣化を図ったり、学級懇談会等で家庭学習の意義を伝えたりすることで、児童の家庭学習の習慣化を図る。

7 学校関係者評価

・多くの項目で数値目標が達成されていて素晴らしいと思います。あいさつについては、学校・家庭・地域で子供たちに働きかけてさらに改善していけると良いと思います。 ・多くの項目の肯定的回答が昨年より上回っており、学校(職員)、児童、保護者との信頼関係が感じられます。 ・これからも、職員が児童に目を向け、児童の声に耳を傾け、保護者の相談などもしっかりと聞くことでより良い学校になると思います。 ・今回の達成状況を持続できるよう、取り組んでいただきたいと思います。 ・コロナ禍の中で、これまで以上の健康・安全な取組をお願いします。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・地域の教育力を生かした「ブルーベリー栽培活動」や、ボランティアによる「読み聞かせ」の活動など、特色ある学校づくりを展開することができた。各種ボランティアの募集をして、地域の方々が学校の教育活動に広く参画できるようにする。
- ・学校行事の精選やＩＣＴ機器の活用により業務の効率化を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスを見直す観点から長時間労働を削減し、教職員一人一人が力を発揮できる環境づくりをする。
- ・ＧＩＧＡスクール構想推進委員会を定期的に設定し、学習面、生活面での一人一台端末の利用の仕方の共通理解を図る。

【学習指導】

- ・「聞き方」、「話し方」の指導を取り入れて、基礎・基本の確実な定着を目指す。「聞き方」では自分の考えをもち、友達の考えと比べながら聞くことができること、「話し方」では話し方の「型」を示し、相手意識をもって話すことができることを授業で取り入れながら指導をしていく。
- ・ＡＬＴと協力しながら、外国語を使つての児童同士のコミュニケーションが図れるような活動を工夫したり、英語の本の読み聞かせを実施したりする活動を通して、社会の変化に向き合い対応できる力を育てる。
- ・ＩＣＴ支援員と協力しながら、一人一台端末の効果的な利用の仕方についての実践事例の蓄積と全体での共有を図り、ＧＩＧＡスクール構想推進を進めていく。
- ・給食時の校内放送で、宇都宮市の歴史や良さ、魅力について伝えていくことを継続していくとともに、生活科での地域の探検、社会科での宇都宮の施設巡り、総合的な学習の時間での地域の良さの紹介などの活動を通して、宇都宮学を推進する。

【児童・生徒指導】

- ・全職員が、あいさつの仕方や時間の管理、廊下の歩き方などについて共通の意識で指導し、基本的な生活習慣の確立を図る。
- ・人権を大切にすることを醸成し、思いやりの態度を育成する。また、定期的なアンケート調査や教育相談を実施して児童の実態把握に取り組み、児童の気持ちに寄り添ったり、保護者との連携を図ったりすることを継続する。
- ・「こころぽかぽか運動」を継続したり、道徳科の授業で「親切、思いやり」の価値項目を重点指導したりすることで、感謝の心を育成する。
- ・学級活動や児童会活動の充実を図ったり、キャリアパスポートを活用し自己の目標の設定・振り返りをしたりする活動を通して、自ら考え、正しく判断する力を育成する。
- ・地域学校園全体研修会の機会を活用して、各部会ごとに地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を行う。

【健康・体力】

- ・「うつのみや元気っ子チャレンジ」への参加や水泳検定、なわとび検定の実施を通して各自が目標をもって運動に取り組み体力の向上を図る。
- ・給食後の歯磨きや長期休業中の歯磨きカレンダーを通して、虫歯予防への意識の向上を図る。
- ・うがい、手洗い、マスクの着用、換気などコロナ感染症拡大防止に取り組む。
- ・給食時の校内放送や献立表で、引き続き地元で採れた食材を紹介し、食に対する関心を高めていく。
- ・計画的に避難訓練を実施し、非常時の避難が円滑にできる救急・連絡体制の整備に努める。
- ・消防署、スクールサポーター、交通指導員、登下校見守りボランティアなどとの連携・協力を通し安全な学校づくりを目指す。